

天竜浜名湖鉄道 地域公共交通活性化・再生総合事業 (天竜浜名湖線市町会議)

事業期間
20～22年度

鉄道の存続に向けて、天竜浜名湖鉄道の活性化と再生を総合的かつ一体的に推進するため、地域の現状や市民のニーズ等を把握した上で、交通事業者、関係機関、地域住民等、天竜浜名湖鉄道の発展を願う地域の主体が力を合わせ、効果的な利用促進策を展開します。

【天竜浜名湖線市町会議】

◎委員

浜松市、掛川市、袋井市、磐田市、湖西市、森町、静岡県、◎特別委員 豊橋市

◎オブザーバー

遠州鉄道、学識経験者、沿線の企業、高校、支援団体、地域住民、国(中部運輸局)

⑥各種イベントとの連携 2,164千円
各種フェスタの開催、ウォークの充実

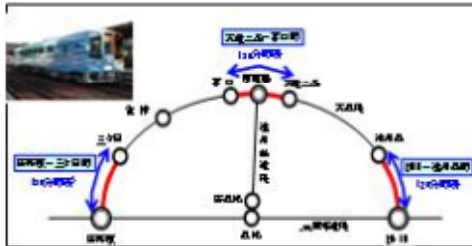


⑨地球環境対策への対応
環境PRポスター等の作成 996千円



事業の概要(20年度)

- ①利便性の高い列車運行サービスの提供 6,382千円
- ②鉄道結節駅の利便性向上 2,592千円



左図3箇所における他社との乗り継ぎ利便の向上、接続案内の方法等を検討



③利用しやすい運賃制度 1,006千円
新タイプ定期券や回数券、バスとの連絡運賃検討

④駅を核とした魅力の向上 2,835千円
駅魅力向上計画の策定

⑤アクセス改善 1,239千円
駐輪場の整備 (三ヶ日駅)

⑦天浜線のPR 504千円
パンフレットの作成

⑧事業所・教育機関・商業施設等との連携 100千円
沿線高校の入学説明会において時刻表と一緒に配布し通学利用PR

導入への プロセス

天竜浜名湖鉄道沿線の地域資源の発掘や利用者ニーズを掴むため、アンケート調査により、鉄道と沿線地域との関わりについての再検証と、新たな運行ダイヤや総合的な誘客対策など、鉄道の実態にあった体制を築き上げるための基礎的調査を行うとともに利用促進に向けた実効性の高い調査を実施し連携計画を策定。

天竜浜名湖鉄道では、平成21年度から新社長を民間から招聘するとともに、「新経営計画」により経営改善に取り組むこととしており、**新経営計画に基づく利用促進事業に対して、本事業を活用することにより、結果として会社の経営改善にも資することとなった。**また、新経営計画の策定にあたり、会社において既に基本的な調査(会社の現状、地域の社会的な情勢や経済状況等)について実施してあったので、それらを活かすことで連携計画を順調に策定できた。

調査事業で実施した利用者ニーズをつかむアンケートでは、列車運行本数の増加、他鉄道やバスとの乗換の利便性向上、駅までのアクセス改善を求める声が多かったため、既存の設備や要員で可能な範囲で列車本数の増加が図れるようにダイヤの検討を実施した。また、駅までのアクセス改善については、短期的に可能な範囲で駐輪場の整備などを実施することとした。

事業の実施にあたっては、県や市町の広報誌への掲載や報道機関への情報提供、近隣のJR駅でのチラシ配布など積極的な広報に取り組み、多方面への周知を図った。

初年度の 効果

イベントによる利用促進

毎年11月に開催しているイベント「天浜線フェスタ」では、今年度から実施日を2日間にするなどリニューアルした結果、合計で約6千人の来場者があり、また、期間限定の1日フリー切符の発売や鉄道利用の来場者限定で抽選会を実施するなど、利用促進に工夫した結果、**開催月の乗車人員が対前年比で3%増加**した。

DMV実証実験を記念したイベント「DMVフェスタ」では、開催期間中限定の1日フリーきっぷを発行するとともに、地元観光協会とも連携して地元商店で使えるクーポン券を発行するなどして誘客した結果、1月31日(土)～2月2日(月)の**3日間**の**天竜浜名湖鉄道の収入は、対前年比で60%増加**した。

アクセス改善

地元高校生の利用が多い三ヶ日駅では、**駐輪場が慢性的に不足していたため、新たに100台分増設**。駅舎入口付近に駐輪していた自転車の解消が図れたとともに、計200台の駐輪場が平日は**ほぼ満車状態**となっている。

観光利用の促進

沿線の観光地や名物等を紹介するパンフレットを作成し、沿線各駅、市町やJR線の駅で配布した結果、車内でパンフレットを手にした乗客が日常的に見られるようになった。また、パンフレットに掲載された施設・店舗にもパンフレットを持参して訪れる方が多く見られるようになった。

次年度 以降

イベント等一時的な利用促進だけでなく、沿線住民が日常的に利用しやすい仕組みづくりなど総合的な誘客対策を実施し利用促進を図る。

- 上記事業に取り組んだ結果、**平成20年度の鉄道利用者数は平成19年度と同数の162万人で、減少傾向に歯止めがかかった。**
- 利便性の高い列車運行を検討した結果、**遠州鉄道線と接続する西鹿島駅を含む天竜二俣一宮口間の増便をメインとしたダイヤ改正を行い、実証運行を行う。**
- 21年度から遠州鉄道と連携したフリーキップや、各学校の学期期間に合わせた学期定期券を開発・販売する。
- 各駅の駅舎や駅周辺の調査結果に基づき、掛川・天竜二俣・新所原などの主要駅の待合室の改修等に取り組む。
- 複数の支援団体を、有機的に結びつける仕組みとして、新たな支援組織(サポータークラブ)の結成を今後検討していく。
- 駅までのアクセス改善に対しては、市町の管理する旧鉄道用地を活用したパーク&ライド駐車場の整備が考えられるが、整備に費用がかかることや、無人駅などの場合に駐車場の管理等の課題があり、今後検討していく。